

# あなたは「知ったかぶり」?

これから書く内容は、一年の皆さんにはわからないことかもしれませんが、来年度になったらわかるのでできたらお付き合いください。二年の国語の授業が『徒然草』に入ったようです。教材名は「仁和寺にある法師」。京都の右京区にある桜（御室桜）で有名な仁和寺という寺のお坊さんの話です。

京都府八幡市にある石清水八幡宮という立派な神社をお参りしたことがなかったそのお坊さんは、ある時思い立ってお参りに行きました。

山の下にある寺や神社をお参りし、それらを石清水八幡宮だと思いついて、お参りしてきたことを人に自慢します。山に登って行く人が多くいても、山登りが目的ではないという理由で自分は登りません。しかし、石清水八幡宮は山の上にあります。つまり、そのお坊さんは石清水八幡宮には行っていなかったのです。

その話は、作者兼好法師の「少しのことにも先達はあらまほしきことなり」という言葉で結ばれています。「ちよつとしたことにも案内人はいてほしいものだ」という意味です。「石清水八幡宮は山の上にあると教えてくれる人がいてほしい」と、多くの人がそう解釈するでしょう。実はそれだけではありません。それで終わっていったら、単なる愚かなお坊さんの話になってしまいます。

「あなた、そういうのを『知ったかぶり』というのですよ。知りもしないのに、いかにも知っているように話さない方がいいよ」と人間の愚かさを教えてくれる人がいてほしい、と解釈すべきところが徒然草の奥深いところです。

『徒然草』は随筆です。一年の教科書に載っている『枕草子』も随筆です。二つは同じジャンルですが性質が全く違います。『枕草子』は、感覚的にとらえた内容が中心に書かれています。それに対して『徒然草』は、人生や人を深く考えた思索的な内容が書かれています。『徒然草』に書かれている内容を、現代人にあてはめて考えると非常に面白いよ。先に述べた「知ったかぶり」であてはめてみましょう。学習したことの中にわからないことがあるのに、わかったような気になっていることはありませんか。わからないことをそのままにしていることはありませんか。それは全て「知ったかぶり」ですよ。現代人も十分兼好法師のネタになりそうですね。

今ラウンディングコモンスのテーブルの上に「時」の本がディスプレイされています。その中の一つに『兼好さんの遺言』（写真）という本があります。現代人が考えるべきことが、たくさん載っています。一度読んでみてはいかがですか。私は先日読みましたよ。

（十二月十日 記）

